

第6回 能登半島地震における土砂災害対策検討委員会

議事要旨

1. 日時 令和7年1月20日(月) 15:00～17:20
2. 場所 石川県庁 11F 1109 会議室(Web 併用)
3. 出席者

【委員長】

丸井 英明 (新潟大学名誉教授)

【学識委員】

内田 太郎 (筑波大学生命環境系教授)
川村 國夫 (金沢工業大学地域防災環境科学研究所教授)
柳井 清治 (石川県立大学生物資源環境学部特任教授)
鈴木 啓介 (国土技術政策総合研究所土砂災害研究部砂防研究室長)

(Web 参加)

堤 大三 (信州大学学術研究院農学系教授)

【行政委員】

村井 雅浩 (気象庁金沢地方气象台次長)
木村 勲 (国土交通省北陸地方整備局河川部長)
杉本 敦 (国土交通省北陸地方整備局能登復興事務所長)
(代理)田中 尚人 (石川県土木部砂防課長)

(Web 参加)

(代理)黒田 浩二 (輪島市総合防災対策課長)

(代理)延命 公丈 (輪島市建設部土木課長)

(ご欠席)

荒木 浩一 (石川県危機管理監室次長)

【臨時委員】

上石 勲 (防災科学研究所雪氷防災研究センター特別研究員)

(Web 参加)

吉柳 岳志 (土木研究所雪崩・地すべり研究センター所長)

【北陸地方整備局】

河川部地域河川調整官 山路広明、河川計画課長 板倉舞、建設専門官 梅田ハルミ、
河川工事課課長補佐 九田将茂

4. 議事概要

1) 討議

- ・ 令和6年1月1日に発生した能登半島地震により河道閉塞箇所の生じた、牛尾川、寺地川、市ノ瀬地区(紅葉川)および9月20日からの大雨により被災した塚田川における現在の工事進捗状況と今後の対策方針について報告を行った。さらに、今後の融雪期を迎えるにあたっての警戒避難に対する対応状況について、臨時委員および気象台を交えて報告を実施した。討議内容は以下の通りである。

【土砂災害対策箇所の進捗状況報告】

- ・ 各対策の実施箇所は、現段階で効果が最大限に発揮できる箇所としていただきたい。
- ・ 各河川の状況を踏まえて仮設構造物を施工する計画となっているが、次の出水期までの対策を目指すためには施工速度の観点から、ブロック堰堤が主になると考えられる。今後の恒久対策については、応急対策と恒久対策で考え方を分けて検討していく必要がある。
- ・ 市ノ瀬地区の地すべり地については、検討法線以外にも局所的な弱部があることが考えられるため、今度の出水期にむけて地すべり地全体の安定性を精査していただきたい。
- ・ 牛尾川や寺地川の応急対策について、対策工実施位置の選定理由が分かりにくいいため、地震直後の状況から9月豪雨を受けての状況を踏まえて整理したほうがよい。
- ・ 豪雨時にブロック堰堤が流出した実績もあるため、ブロック同士の連結や安定化についても検討していただきたい。

【土砂災害対策箇所の恒久対策の概要報告】

- ・ 不安定土砂が流域内に多く存在することは事実であるが、それらの土砂が一度の出水でどの程度流出するのかについては、豪雨時の実績等を整理した上で計画を設定してはどうか。
- ・ 想定される出水シナリオによって流出する土砂量は異なると考えられるため、流出する土砂量を適切に評価できるような検討が必要である。
- ・ 鈴屋川流域内の保全対象の位置関係によっては、鈴屋川の支川においても牛尾川のような施設整備をする必要が生じることも考えられるため、整理しておくといよい。
- ・ 流域内に不安定な土砂が大量に堆積していることから、今後の中小出水でも土砂が多く流出することも考えられるため、大雨に備えることも考慮して砂防堰堤を除石管理型とするなどの捕捉容量を確保するための方策を検討してはいかがか。
- ・ 能登半島で生じた過去の土砂災害について、谷部に堆積した土砂が二次移動した事例は40年の間で2回ほどであった。応急対策や恒久対策の各段階において、9/20の豪雨と同様の被害を生じさせないためにはどのような対策が必要かを考えていただきたい。
- ・ 豪雨前後の河道内の標高差を比較すると多くの土砂が堆積しているように見えるが、現状では比較的安定した勾配で堆積していると考えられる。そのため、堆積した土砂を床固等で動かさないような施設整備も考えられるのではないかな。
- ・ 恒久対策の詳細を検討する際には、現在の土砂堆積状況や流域内の土砂動態を踏まえて、複数案を比較検討して評価した上で提案していただきたい。
- ・ 鈴屋川本川に砂防堰堤を施工することで上流域の生態系への影響が懸念されるため自然環境への配慮を含めて対策工事を進めていただきたい。

- ・ 市ノ瀬地区に残存する湛水地への対応については、埋め戻しや切り下げなどを実施した際のリスクや地すべり地の安定性などを比較検討した上で、恒久対策を実施していただきたい。

【警戒避難に対する対応状況について】

- ・ 各河川で実施している出水後の河道掘削の状況と流域雨量指数との関係について、関係機関が連携を図りながら調整していただきたい。